

みんなだれかの大切な家族

小四

ぼくは、お母さんにほめられるとうれしくなります。お母さんやお父さん、それにお姉ちゃんが、ぼくのことを見守っていてくれると思うと、いつもほっとした気持ちでいられます。ぼくの大切な家族です。家族がなんでもしてくれるわけではないし、今みんなでいっしょにいられるのもきせきです。毎日楽しい日々ひびが送れているのも家族がいるからです。ぼくが学校で友達とけんかをしてしまったとき、言い合いになってきずつくことを言われ、トイレで一人

でくやしくて泣いてしまったことがあります。もはやした気持ちで帰ると、その話を聞いたお姉ちゃんが、いっしょにはらを立ててくれました。お父さんやお母さんは心配をしてくれて、
「こうやったら仲直りできるんじゃない？」
とか、
「こういう気持ちのときはこうする」といいます。
いろいろな教えてくれたり話を聞いてくれたりしました。おかげでぼくは落ち着いて考えることができました。落ち着いて考えたら、ぼくも友達にひどいことを言ってしまったことを思い出しました。おこっている

ときは気付かなかったけど、友達も
きずつけてしまったかもしれないと
思いました。

「あなたがきずついたり悲しかった
りすると、お母さんも悲しい
な。」

とぼくのお母さんはよく言っていま
す。「もし、友達のお母さんも同じ
気持ちだったら、友達も、友達のお
母さんも、友達の家族も悲しい気持
ちにさせてしまったかもしれない。
ぼくは悪いことをしてしまった。」
と思いドキドキしてきました。次の
日、ぼくはすぐにあやまりました。
友達もあやまってくれて、休み時間
にはいつも通りドッジボールで仲よ
く遊びました。

この時のけんかで、ぼくは大事な
ことに気付きました。ぼくに大切な
家族がいるように友達にも大切な家
族がいるということです。ぼくがう
れしかったり悲しかったりしたら、
ぼくの家族もうれしかったり悲し
かったりするように、友達や、友達
の家族も同じなんだということです。
友達だけじゃありません。先生や大
人の人、外国の人もみんなだれかの
大切な人なんだということです。み
んなが、だれかの大切な人というの
はすばらしいことだと思います。だ
からこそ、その人をきずついたり、
悲しませれば、その人の家族や大切
な人を悲しませることになります。
ぼくはそれはやってはいけないこと

だと思っています。だから、ひどいこと
やいじわるを言いそうになったとき、
ぼくはそのことを思い出そうと思ひ
ます。

ぼくは、あのけんかした日のドキ
ドキした気持ちをわすれずに、友達
や周りの人を大切にしていきたいで
す。